

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

11

男子 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
大阪商業大学堺	20	12	7	県立香川中央
		8	7	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		

初戦を迎える、今大会が初出場の大阪商業大堺と5年ぶりの出場となる県立香川中央の対戦。

香川中央のスローオフでスタート。大商大堺ディフェンスから速攻でペナルティースロー。2番小

川が先制点。対する香川中央は、ミスを誘い持ち味のディフェンスから速攻で点差を詰め寄る。

しかし大商大堺の速攻は止まらず連続得点で11分5-3。流れは大商大堺にあるものの、香川中央

GK1番伊藤の好セーブでリズムは掴めない。ここでリズムを掴むべく大商大堺タイムアウト。その

後すぐ1点追加。香川中央2番小川のゲームメイクで着実に得点を決める8番木太。ラスト5分大商

大堺5番濱田のサイドシュートで4点差をつけ、ようやくリズムを取り戻したところで前半終了。

大商大堺の5番濱田の得点で後半スタート。香川中央のディフェンスが堅く、立ち上がりは互角の戦

い。互いにミスが目立ち展開が止まる状況がしばらく続く中、大商大堺が動き出し速攻で2点連取。

香川中央は、焦りからか5番宮本の得点以降なかなか点差は縮まらない。香川中央粘るも、大商大堺

の勢いは止まらず、リズムを渡すことなく得点を重ね、20-14で勝利を勝ち取った。

2016年 3月 25日

記載者氏名 山城梨沙

戦 評 用 紙

男6

男子・女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
昭和学院	28	<table border="1"> <tr><td>13</td><td>—</td><td>9</td></tr> <tr><td>15</td><td>—</td><td>10</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7mTC</td><td></td><td></td></tr> </table>	13	—	9	15	—	10	—			—			—			7mTC			19	松山工業
13	—	9																				
15	—	10																				
—																						
—																						
—																						
7mTC																						

初戦同士の顔合わせとなった一戦は、松山工業のスローオフで試合開始。開始早々、松山工業が7mスローを得て、山本がこれを決め先制。互いに、隙を作らない鉄壁のディフェンスで簡単に得点を与えない。7分35秒、昭和学院・青沼が2点目を決め2対1とリード。その後、昭和学院は松山工業の鉄壁ディフェンスの上を抜く高さのあるシュートで着実に加点していく。対する松山工業も、中村が見事なサイドシュートを連発する活躍で必死に喰らいつく。前半終了間際の29分59秒に松山工業が得点を決め、昭和学院の4点リードで前半を終える。後半2分49秒、松山工業・浅川が2分退場。このチャンスを逃さなかった昭和学院は4連続得点を決めるなど、順調に点差を広げ、優位に立つ。中盤は昭和学院ペースで試合が進む。終盤、昭和学院にパスミスが目立ち始め、松山工業も速攻を駆使して反撃に出るが、昭和学院のKP柳下のファインセーブで悪い流れを止める。後半から主導権を握り続けた昭和学院が28対19で勝利した。

平成 28年 3月 25日

記載者氏名 石田 聡